

TOKO NO.160

目次

障害者救援 1

「ゆめ風さいたま」はわらじの会が連絡先です

春日部・越谷市に要望書 2

震災でも重要な「顔が見える関係」を

分けた結果をグラフで 4

分ける教育の 30 年の総決算をグラフでたしかめれば

TOKO アンケート結果 5

年頭をお願いしたアンケート集約 いま保育所・幼稚園、学校で

総会記念シンポジウム 8

Uターン！分けられた世界から 共に 埼玉障害者自立生活協会の総会とシンポです

寒ひらこ 9

イベント情報のひろば

おしゃべり会 10

◎県民健康福祉村 5月8日(日)です

郵送でお届けしている皆様へ

この情報誌がご不要の場合やホームページで見るので郵送しなくてもよいという場合は、お手数ですがメールか葉書等でお知らせいただければ幸いです。

ゆめ風基金では、この大災害で被害を受けた障害者と、ともに暮らす地域へ支援を届けます。



確かに車椅子に乗っている。たぶん走って行ってガレキの下から人を引っ張りだすことは難しい。

しかし、今彼らは1000年に一度という未曾有の災害が通り過ぎた街で、ましてやいまだ続く人災としての原発事故の被害の中で、事務所を開け、被災した障害者やそうした災害弱者と呼ばれる人たちの為に奮闘しています。

障害者は一人では弱い。だからこそ障害者は繋がりを作り、ネットワークを構築して地域で生きてきたのです。だからこそ、こうした災害の中で、彼らは自分たちの繋がりをフルに使い、今も地域で共に生きる仲間たちの支援を続けています。

私たちゆめ風基金はこうした所にすばやく支援を届けていきます。それは障害者の為だけでなく、地域で生きる皆の所へという願いでもあるのです。皆様方の支援をよろしくお願い致します。

災害弱者といった言葉があります。とかくいざという時になにかを「される」人であり、災害などの緊急時には災害に対して非常に弱いとされる人の事のように。上の写真は仙台の障害者団体であるCLたすけっとのみなさんの写真です。



「ゆめ風基金」の運動に、ぜひお力添えを！

今回のような災害時の障害者救援金のほか、積極的にこの基金運動に参加していただける方、もっとくわしくお知りになりたい方にリーフレットをお届けしています。お気軽にお申し込みください。
NPO法人 ゆめ風基金事務局
〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-14-1-108
TEL06-6324-7702 FAX06-6321-5662
<http://homepage3.nifty.com/yumekaze/>

障害者救援金送り先 「とうほく」とお書きください。
郵便振替口座 00980-7-40043
「ゆめ風基金」

東日本大震災で被災した障害者と、共に生きる地域の救援を！



ゆめ風さいたま発

TOKO が初めてお手元に届いた方へ TOKO を初めて目にした方へ

子ども達を分け隔てなく育てるために どの子どもと一緒に地域の学校へ通えるように 地域へ、行政へ、働きかけている会です ぜひ、一度のぞきにきて下さい 待っています

いまこそ 共に学び・育つために改革を！

春日部・越谷両市に **新しい要望書を提出** 震災でも最重要な「顔が見える関係」を 小さい時からしっかりと育む自治体へ

2011年 月 日

市教育委員長 様
市教育長 様

どの子も地域の学校へ！公立高校へ！東部地区懇談会
埼玉県春日部市大場690-3 谷中耳鼻科内
(連絡担当者:白倉 保子 048-752-7351)

要 望 書

障害のある人もない人も共に生きる地域社会の実現に向けてご尽力いただきまして、ありがとうございます。これまでの確認や話し合いおよび国、県レベルの状況を踏まえ、下記のとおり要望いたします。

1. 基本的考えの確認と相談のあり方改善について

2003年以降、貴委員会は、「本来は障害のある子どもない子ども地域の通常の学級で共に育ち・共に学ぶことが大切である。現状ではそこで学ぶための理解や支援が整っているとは言い切れない状況もあるので、親子が望む場合には、特殊学級や盲・聾・養護学校も用意し、そこでの教育を選択できるようにしている。」とくりかえし確認して来られました。この考えは、学校教育法施行令5条の「就学すべき」という規定は改める必要があるという、いまの国レベルの動きに先行してきたことを、まず確認したいと思います。

しかし、この基本的な考えが、就学前の相談の現場では具体化していません。就学前の親たちは、幼稚園、保育所、ことばの教室などで、「行っておいたほうがいいですよ」と就学前の相談に行くことを勧められ、「行かないといけないのかな」と思われて、相談に行きます。そして、相談では「地域の通常の学級で共に育ち・共に学ぶことが大切」というよりも、「お子さんの障害に合った適切な場で教育をうけたほうがいいですよ。」とくりかえし勧められたと証言しています。これは相談ではなく誘導であり、基本的な考えに反していますので、あらためて下さい。

2. 通常学級における多様な支援方法の検討について

2003年に確認された「障害のある子どもと障害のない子どもが、分け隔てられることなくともに学び育つことができるように、多様な支援方法を検討して障害のある子どもの地域の通常学級での学校生活をサポートする施策を進め」、「地域の通常の学級で共に育ち・共に学ぶ上でのさまざまな壁や親子の不安・ためらいにこたえ、支えてゆくための『相談(および支援)』活動」を、具体的に実行して下さい。

現在の通常学級では施設・設備の上でも、人的配置の面でも、障害による不利益をもたらす条件がたくさんあることは事実です。しかし、問題なのはそのことよりも、不利益をがまんしなさいと、本人・親にあたりまえのように適応を強いてくる学校の姿勢です。

施設・設備面では、バリアフリーをうたっている学校でも、その障害に合わせた調整的な対応をせず、設備は宝の持ち腐れになり、結果的に親の付き添いを要求してくるといったことすら起こります。人的な面では、2003年の「入学時も、入学後も、保護者に対して付き添いの強要は、行わないよう、校長に確認している。」という確認とは異なる事態が、相変わらず続いています。支援員がいない時間帯や校外学習に、有言、無言の付き添い強要があります。

貴教委として、市内の各学校で行われている付き添いの実態について調査し、教えてください。

また、そもそも「通常学級における多様な支援方法」について、一貫して検討されてきたのですから、その蓄積の上に立って、貴市として、地域の通常の学級で共に育ち・学ぶための施設・設備と人的体制を整備するための計画を策定して下さい。

その上で、現状においては、障害のある子どもたちを、学級・学校全体で受け止めて行くこと、決して本人・保護者が負担をひきうけるのは当然だと考えるべきではないことを、現場に徹底して下さい。

施設・設備については、本人・保護者の意見を十分に聞いて、できる限りの応急の調整を行ってください。付き添いの強要はしてはならないことを、徹底して下さい。

3. 支援員の支援について

支援員が徐々に増えていますが、あくまでも、学級・学校全体で受け止めて行くための補助であることを確認して下さい。

また、支援員が付いたことによって、他の子どもたちとのつきあいがなくなったり、障害のある子の介助や学習を支援員任せにする教員がいたりする状況はなくしてゆかねばならないことを確認して下さい。

共に育ち・共に学ぶことを補うための支援であるという支援員の役割を、支援員と教職員が互いに理解できるような研修を十分に行ってください。

4. 特別支援学級・特別支援学校に通う子どもたちがともに学び育てるように

「本来は障害のある子もない子も地域の通常の学級で共に育ち・共に学ぶことが大切である。現状ではそこで学ぶための理解や支援が整っているとは言い切れない状況もあるので、親子が望む場合には、特殊学級や盲・聾・養護学校も用意し、そこでの教育を選択できるようにしている。」という確認に基づけば、特別支援学級や特別支援学校の生徒もみな「本来は地域の通常学級で学ぶべき子ども」と言えます。

「交流と共同教育」がうたわれ、「支援籍」が導入されていますが、残念ながら、特別支援学級や特別支援学校の生徒が地域の通常学級に戻るための支援はあまりにも未整備といってよいでしょう。特別支援学校に行っている子どもは、子ども会からもはずされ、地域から存在が消されたようです。

障害のある子どもだけが集められた場では、通常学級のようなさまざまな子ども同士の関係がないため、少人数教育といっても教員の手が足りない状況が日常化し、ここでも付き添いを強いられる場合があります。特別神学校では、障害の状況によって、細かく分けられます。

したがって、通常学級から特別な場へ移る生徒は多くとも、いったんそこへ移ったら、あまりにも通常学級とは遠い環境になるため、戻れる子はほとんどいないのが実態ではないでしょうか。

けっきょくは、障害のある生徒の多くが特別支援学校高等部卒業まで、分けられた環境で成長し、卒業の途端に「社会的自立」を迫られることとなります。しかし、本人も受け入れる社会の他の人々も、たがいにつきあいなして生きてきたため、ごく限られた者が就職や高等教育へ進むだけで、大半が福祉施設へ分けられてゆかざるをえません。

「本来は地域の通常学級で学ぶべき子ども」が、早期に復帰できるようにするためにこそ、十分な継続相談が行われるべきであることを確認して下さい。そのために「交流と共同教育」に格別な配慮を行い、通常学級に転籍して学ぶための多様な支援方法を整えて下さい。

5. 地域の公立高校進学への支援を

義務教育の現場では、障害のある生徒が中学校までは通常学級で学んだとしても、その先は特別支援学校高等部だろうという意識が一般的です。特に知的な障害のある生徒の場合など、高校は入試があるし、入ったとしても単位を取って進級し、卒業できるのかという疑問に答えられる教職員はほとんどいないのではないのでしょうか。

しかし、障害のない生徒でも、ABCや九九を高校で学んでいる実態もあります。現実の公立高校には、さまざまな生徒が学んでいます。ほとんどの人が高校へ行く時代になり、高校へ行かないことだけで就職試験が受けられないこともしばしばであり、準義務化状態になっています。ただ、障害のある生徒だけが、特別支援学校高等部があるために、高校へ行かなくとも高卒資格が得られる制度になっているわけです。

社会の中で他の人々とつきあい、迷惑をかけあいながら共に生きて行く上で、高校も一緒に行けることを、貴教委として、障害のある生徒、親、教職員に十分に伝えてほしいのです。

障害のある生徒の受検や選抜にあたって障害のあることにより不利益を受けないように配慮することが、埼玉県教委の基本的な考え方です。この考え方に基づいて、さまざまな具体的配慮があるのですが、義務教育現場ではほとんどわかっていないのが実情と思います。現に、重複障害で、それまで中学校の試験では支援員が付いて、選択式でやってくれていたのに、高校を受験すると言ったとたんに、「自分で名前を書けなければだめだから」と言って試験場での介助をしにくれなくなったというような、誤解に基づいた対応まで起こっています。十分に理解を深めた上で、障害のある生徒の公立高校進学を応援して下さい。

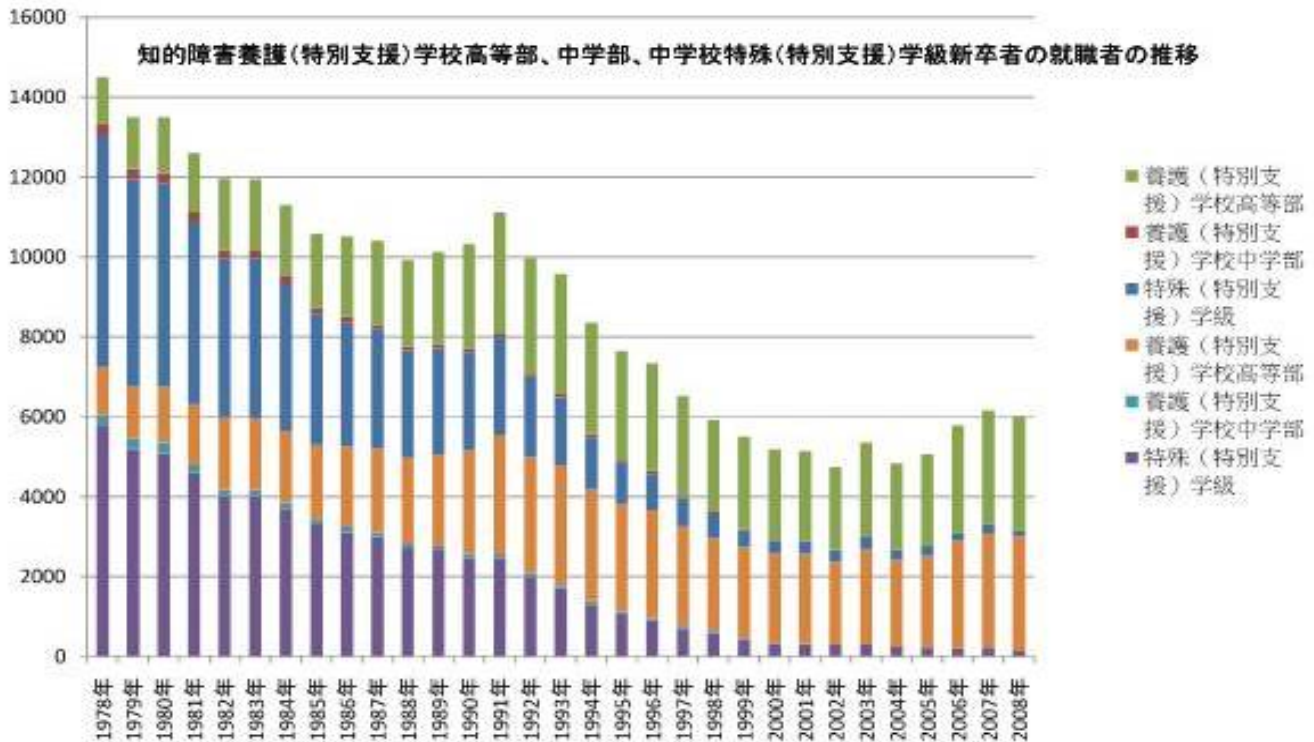
6. 共に学ぶ方向での条例改正と県、国への働きかけ

貴市では、「本来は障害のある子もない子も地域の通常の学級で共に育ち・共に学ぶことが大切である。」としていっているので、障害のある子には特別な教育の場が適切という考えに立った現在の就学支援委員会の条例を改めて下さい。また、就学時健診の告知に際しては、受診義務はないことを併せて告知して下さい。

県、国に対しても、働きかけを行ってください。

(この要望書をもとに、5月以降、それぞれの市教育委員会と話し合います。関心ある方はどなたでも参加できます。疑問や悩みを投げかけ懇談しましょう。日程は1ページの連絡先へお問い合わせください。)

分けて特別に教育的支援をしても



小塩允護「知的障害養護学校高等部における移行教育をめぐる現状と課題」(独立行政法人国立特殊教育総合研究所「就労支援に関する研究」)所収の表に、山下が2004年以降のデータを補う。小塩、山下とも文科省「特殊(特別支援)教育資料」より。1979年の養護学校義務化以後の分ける教育の拡大が、いかに就職者を減らしてきたかが明らか。

社会的自立・社会参加につながりません

春日部・越谷両市教育委員会に提出した要望書を裏付ける資料です。

文科省・教育委員会は、障害のある子を分けて、障害に応じた特別な教育的支援をすることにより、その子が将来社会に出たとき、社会の中で役割を持って自立し、社会に参加できると説明しています。

ほんとうにそうなのか?上のグラフは社会的自立・社会参加にとって重要とされる就職の面から、分ける教育の30年間を総決算した結果です。トータルに見れば、就職者は激減してきたのです。

分ける教育によって、互いの顔が見えなくなってゆけば、いくら法定雇用率達成を指導しても、雇用助成金を拡充しても、ジョブコーチを付けても、けっきょくは「障害者手帳を持っているが、仕事はよくできて、問題を起ささない障害者をほしい」と企業が考えるのは、あたりまえです。かつては、それなりに顔がつながっていたから、「〇〇新田の〇〇さんとこのあんちゃんだから、試しにこんな仕事させてみるか」といったことが多かったのですから。

ちなみに、今回の大地震の時の春日部特別支援学校の状況は、以下でした。

「東武野田線の春日部から下り方面は一週間ほとんど動かず、電車通学の生徒は登校できなかった。送り迎えできる家庭も少なく(ガソリン不足もあり)、登校時間は動いているが帰りはないとか、停電で電車が止るかもしれないとか、信号が消えて危ないとか。ガソリンスタンド待ちの車で渋滞が起こり、スクールバスは長くは2時間以上遅れた。そんなこんなで、22日(火)は休校となった。

行き帰りが危ないからもっと早く休校にすべきだったという意見が強かったが、家庭でずっと過ごすのもたいへんだらう。昼間は一人で留守番の母子家庭もある。こんな時、やはり頭に浮かぶのは、“地域の学校” “地域の知り合い”だ。」(竹迫和子さんのメールより)

いま 保育所・幼稚園・学校で

TOKO2011アンケート回答

年頭に、主としてお子さんが在園、在学中の方に送らせていただいたアンケートの結果をまとめました。TOKO発行が遅くなってしまう、時期外れの部分もありますが、誌上での交流・交歓と考えて掲載します。

保育園・幼稚園で

◆幼稚園に行きはじめました

・最近のようす

幼稚園に11月から入園して、集団生活になじめ、お友だちもできて楽しそうです。

・悩み・喜びなど

悩みとまではいきませんが、トイレをうまくできるようになるといいかな～

・これからのこと

お友だちとコミュニケーションがとれるよう言葉が出たらいいです。

・TOKOニュースや活動について

とてもためになるというか、参考にさせていただいています。

〈春日部市・須藤英子さん〉

◆遅れながらもついていく

・最近のようす

幼稚園に入園したことで、さまざまなことができるようになり、行事等も補助なしで参加できている。

・悩み・喜びなど

みんなと同じことをやっていたり、遅れながらもついていく姿を見て、うれしくなった。

・これからのこと

次のステップは小学校入学なので、それがいちばん不安。

・TOKOニュースや活動について

毎回楽しく読ませていただいたり、考えさせられたり…内容の濃いものでいつも感謝しております。

（杉戸町 小林佳美さん）

◆「通常学級！」と言えない

・最近のようす

11月の就学相談会に出席し、その後教育委員会との面接をしてきました。

・悩み・喜びなど

悩みはやはり就学先です。喜びは子どもが文字に興味を持ってくれたり、お絵描きが進んだりといったことです。

・これからのこと

どうしても「通常学級！」と言えず、特別支援学級に行くかもしれません。

・TOKOニュースや活動について

いつも読ませていただいています。ありがとうございます。

（春日部市 橋本淳子さん）

◆特別支援学校に決まりました

・最近のようす

お姉ちゃんのまねをよくします。遊びや服、お姉ちゃんの好きな色など。

・悩み・喜びなど

少しずつ単語を言えるようになりました。動きが激しく、部屋を散らかすことです。

・これからのこと

越谷西特別支援学校に決まりました。

・TOKOニュースや活動について

進学先のことなどで悩んだとき、わらじから送られてきたニュースを何度も読ませていただきました。

（松伏町 望月幸子さん）

◆学区の通常級に就学予定

・悩み・喜びなど

発達チェックに重点を置いた乳幼児健診を見直してほしいと思っています。

・ **これからのこと**

4月から学区の通常級に就学予定です。楽しみと不安（ドキドキ）が入り混じっています。

・ **ＴＯＫＯニュースや活動について**

いつも情報いただき、ありがとうございます。

(杉戸町 渡邊弘美さん)

◆ **幼稚園に慣れました**

・ **最近のようす**

幼稚園にも慣れ、毎日お弁当を楽しみにしているようです。

・ **悩み・喜びなど**

言葉が出てこないの、周りとのコミュニケーションがとりづらく、どうしていいのかわからないようです。

・ **これからのこと**

就学を控え、今やるべきこと（やっておくべきこと）を考え中です。

・ **ＴＯＫＯニュースや活動について**

拝見させていただいています。活動には参加が難しい状況です。

(春日部市 青山千夏さん)

小・中学校で

◆ **最上級生になります**

・ **最近のようす**

4月から最上級生になります。これからも見守り、励ましていきたいと思っています。

・ **悩み・喜びなど**

きつ音（どもり）や歯ぎしり、暴言など、ひどくなると環境のせい（？）と悩みますが、心理面での成長も見られます。

・ **これからのこと**

中学進学を普通級か支援級か……

・ **ＴＯＫＯニュースや活動について**

いろいろな方の考えや体験談、参考にさせていただいています。

(越谷市 松本みゆきさん)

◆ **友だちもたくさんできました**

・ **最近のようす**

1学期は必要な時間は母も一緒に通学。2学期からは補助員が入り、最近では友だちもたくさんできて、家にも遊びに来てくれるようになりました。

・ **悩み・喜びなど**

自分が特別だと、だからやらなくてもいいと思っていることがある……。

・ **これからのこと**

ゆっくり一歩、一歩、前に進んでいければ…と思っています。

・ **ＴＯＫＯニュースや活動について**

みなさんのがんばりが、はげみになりました。

(越谷市 馬場信子さん)

◆ **悩みは中学進学です**

・ **最近のようす**

身長も伸びて扱いに大変です。

・ **悩み・喜びなど**

中学進学です。

(春日部市 伊江洋子さん)

◆ **中学も普通学級に進みます**

・ **最近のようす**

中学入学に向けて、小学校の先生ともお話しましたが、このまま普通学級で進学します。

・ **これからのこと**

比較的少人数の小学校から中学はかなり人数が増えるので、その中で娘なりになじんでゆけるのか、少し心配しています。

・ **ＴＯＫＯニュースや活動について**

いつもありがとうございます。なかなか参加することができないのですが、この先、高校進学、就職など、気になることはいっぱいなので、情報を届けていただきたいと思います。

(春日部市 佐々木理恵さん)

◆ **興味と挑戦心が出てきました**

・最近のようす

いろいろなことに興味を持ち、挑戦してみよう！という気持ちも出てきています。

・悩み・喜びなど

自分のことはだいぶ自分でできるようになりました。自分の口できちんと自分の思いを相手に伝えられるようになるというと思っています。

・これからのこと

次は6年生。中学、高校のこと、そして卒業後のことも、考えていかなければと思っています。

・TOKOニュースや活動について

TOKOニュースを見て、いろいろな情報、他のお母さん方の考えや思いを知ることができて、ありがたいです。
(越谷市 太田妃早子さん)

◆高校進学についてどこがよいのかと

・最近のようす

中学では、友人関係、授業、係活動など、充実しているようです。

・悩み・喜びなど

高校進学について何校か見学しましたが、どんなところがよいのか考えています。

・これからのこと

社会とどう関わって生きていくか、難しい問題ですが、TOKOの活動を読み、よく考えたいと思います。

・TOKOニュースや活動について

いつもありがとうございます。進学のお話や仕事のこと等、参考になります。
(川口市 琴寄美華さん)

◆友だちにキモイと言われて

・最近のようす

学校の友だちにキモイと言われていて、妹（下の子）の話で知りました。たしかにさわやか系ではないですが。

・悩み・喜びなど

クラスの間関係、担任との相性に悩んでいるようです。

・これからのこと

高校生活を順調に送れたらよいと思っています。

・TOKOニュースや活動について

わらじの会主催のクリスマス会にせめて私だけでも参加したかったです。
(春日部市 石井洋子さん)

特別支援学校で

◆近所の学校がよかったと

・最近のようす

支援学校だが、個人的な個々に合わせた訓練はしてもらえない。

・悩み・喜びなど

無理してでも近所の学校がよかったと後悔。

・これからのこと

塾に行こうかと思っています。

・TOKOニュースや活動について

肢体不自由の人はあまり出てないなど。
(越谷市 末原久光さん)

◆発作が悩みです

・最近のようす

学校で焼き物、紙すきをやっています。

・悩み・喜びなど

発作を抑える薬がなかなかみつからず、それさえなければとっても元気なのですが…。

・これからのこと

お先真っ暗です。

・TOKOニュースや活動について

学校のクラブは去年はバスケット、今年はソフトボールでした。
(越谷市 田口弘樹さん)

Uターン！ 分けられた世界から 共に

北村小夜さん(障害児を普通学校へ全国連絡会世話人) 冲山稚子さん(障害者雇用研究員)
東井研二さん(ふくしネットにいざ代表) 猪瀬浩平さん(見沼福祉康園協議会事務局長)

分けること、分けられることは、見えない放射能のように、私たちの暮らしや仕事や意識の中に染み込んでいる。三陸や北関東の地域の状況にふれながら、そんな私たちの現実をみすえ、かの地の人々とともに、私たちの「共に」を探る

- 排除と分離の教育・四〇年をふりかえって
- 高齢障害者と事業所に見る雇用促進の歴史
- 共に生きつらい地域で共に生きようとして

自分らしく生きようとするのがいつのまにか人を区分けし、権利が権力となってゆきかねない時代の証言を受けて、「埼玉流」の「ごちゃごちゃの道の先を照らし出す。

5/29 PM1 与野本町コミュニティセンター

資料代・500円

国レベルでの障害者制度改革が本格的に進められようとしていたさなかに襲った大震災。津波、原発等の複合災害とあいまって、被災のありよう、現地と遠隔地等のさまざまなちがいにより、人々が分けられ、支援を通してすれ違いつつ出会う関係が、浮き彫りになってきました。これまで日々の暮らしの中にひそやかに浸透してきた関係が、表面化してきたといえるのでしょうか。限りなく入り組んだ谷間を歩きながら、私たちはどのようにつながりを見出してゆけるのでしょうか。学校、職場、地域の現実をじっくりと検証し、課題を探ります。

市教育委員会と話し合い

春日部市、越谷市教委と話し合い
5月中を予定しています



2ページに載せた要望書に基づいて、回答を聞き、意見交換します。要望書以外の悩みや疑問も時間の許す限り、話し合います。市外の方でもかまいません。

平日の午前中に行います。希望者は予め
当会連絡先（1ページ）までご一報を。

わらじ市民福祉講座

子どもの病気40年

一変わったこと 変わらないこと
話し手・山田真さん(医師)

5月22日(日) 13:30~15:30
春日部市健康福祉センター・ゆっく武里
参加費: 500円(資料代)

八王子中央診療所。『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』編集代表。障害のある娘さんは高校を出てひとり暮らしされています。

問合せ: 048-737-1489(黄色い部屋)

障害者の職場参加をすすめる会
総会・記念シンポジウム

「市町村就労支援ってなんだろう」



6月19日(金)

13:00~総会

14:00~シンポ

越谷市北部市民会館(大袋駅下車徒歩7分)

シンポジウム参加費: 600円
(会員は500円 資料代共)

主催・NPO法人障害者の職場参加をすすめる会
048-964-1819(世一緒)

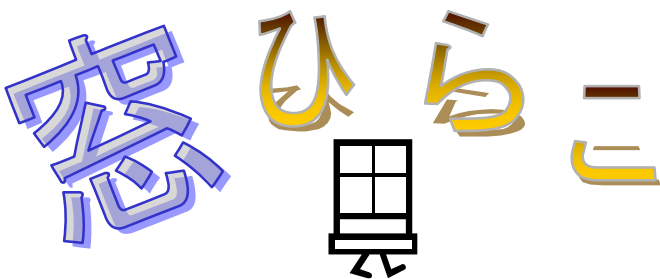
ケアシステムわら細工

「あらためて
顔が見える介助を考える」
総会・記念勉強会

6月25日(土) 13:00
春日部市健康福祉センターゆっく武里

わら細工が生活ホームオエヴィスと一緒に発足して20年一大震災とともに扉を開けた新たな時代で問われる介助のありかたは?

主催・ケアシステムわら細工
048-738-4593



だれもが敵にみえたとき
じぶんをととも無力に感じたとき
なにもかもほうりだしたくなったとき
いそがしいとき いきがつまるとき

こころの窓をちょっとひらこう

TOKOニおしゃべり会に来てみませんか 毎月原則として**第2金曜日 10:30~12:00**に生活ホーム・オエヴィス 048-975-1524 で気軽に情報交換・相談できる場をもっています。時間のある方は、くらしセンター・べしみでお昼を食べておしゃべりを継続。大人になった障害のある人たちの話も聞けるかも。

どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会では、どんな障害のある子どもも県立高校で学んでゆこうと20数年、県教委と交渉の場を年に5回以上開いており、時には高校を訪ねて校長等と話し合ったりしています。通常学級だけでなく、特別支援学級からも県立高校で学んでいます。中学に上がった時点で高校の集まりにも参加してみませんか。時々、交流会、情報交換会も開催しています。来年は、障害児の高校進学・全国交流集会を埼玉で開く予定。一緒に準備にも関わってみませんか。048-942-7543 竹迫

ネットワーク合宿 正式には埼玉障害者市民ネットワーク合宿。障害者だけの世界でなく街の中であたりまえに生きようと活動する県内各地の団体・個人が毎年集まる宿泊交流と勉強の場。今年は**7月2日(土)~3日(日)**国立女性教育会館(嵐山町)で開催されます。090-4938-8689 大坂

わらじの会夏の交流合宿 会発足以来毎年続けてきて第33回となる合宿。障害のある人もない人も、関係者も関係のない人も、ごちゃごちゃと、寝食を共にして、小グループごとに工夫し合って旅します。今年は**8月26日(金)~28日(日)**国民宿舎つくばねを予定しています。048-733-2743 パタパタ

障害のある人もない人も地域で



共に学び・育つ

TOKO 野外交流おしゃべり会

5月8日（日） 10:00

越谷市・県民健康福祉村（埼玉県越谷市大字北後谷 82 048-962-0294）

ときめき元気館前集合後近くに移動します。解散は 15:00。

新緑の中、家族や友だちと一緒に、子どもも大人も、遊んだり、食べたり、おしゃべりしましょう。学校や地域での悩み・体験を持ち寄りましょう。

今回は食事、飲物は各自持参してください。楽しい一日をすごしましょう。（雨の場合など、会場を移しますので、予め電話を教えてください。）

参加費：1家族 500円（資料代）

※できましたら事前に参加申し込みをお願いします。申し込み先は下記。

わらじの会・どの子ども地域の学校へ/公立高校へ東部地区懇談会

【問合せ/連絡先】 しらくら 白倉 048-752-7351(夜間)

なかやま 中山 090-2202-5271

mogucchi_s@yahoo.co.jp

やました 山下 048-737-1489

しみず 清水 048-979-1552

月～金			時	土・日・祝			
			50 6	45			
55	25	10	7	00	35	50	
45	30	10	8	20	45		
50	25	00	9	15	40		
50	30	10	10	00	30		
50	30	10	11	00	30		
	40	10	12	00	20	45	
	50	30	10	13	05	30	50
50	30	10	14	05	30	55	
50	30	10	15	20	55		
	35	15	16	25	50		
50	30	00	17	20	50		
	30	10	18	20	50		
	35	10	19	20	50		
	40	10	20	20	50		
	40	10	21	15			
		15	22	00			
			23				

※浦和美園線は、平日のみの運行とさせていただきます

共に学び・育つ TOKO

野外交流おしゃべり会

5月8日(日) 午前一〇時～午後三時

越谷市・県民健康福祉村 (ときめき元気館前10時集合)

(埼玉県越谷市大字北後谷82 048-962-0294)

午前の部 自己紹介・情報提供の後テーマ別のグループ 午後の部 懇親・懇談タイム

(このほか散歩・探検グループもつくりまます)

県民健康福祉村

